八潮だより

第36号
発行所 八潮公民館
発行人 会田悠治
編集人 大山昌吾

区長会

会長に大山昌吾氏選出

副会長は加藤、藤波氏

四月二十八日、午後零時三十分から公民館日本間において区長会を開き、会計報告並びに役員の改選を行ない左の通り役員を決定した。

会長　大山昌吾
副会長　加藤市三郎
同　藤波信昭
監事　鈴木寅一郎
同　大山善治
同　喜平四郎

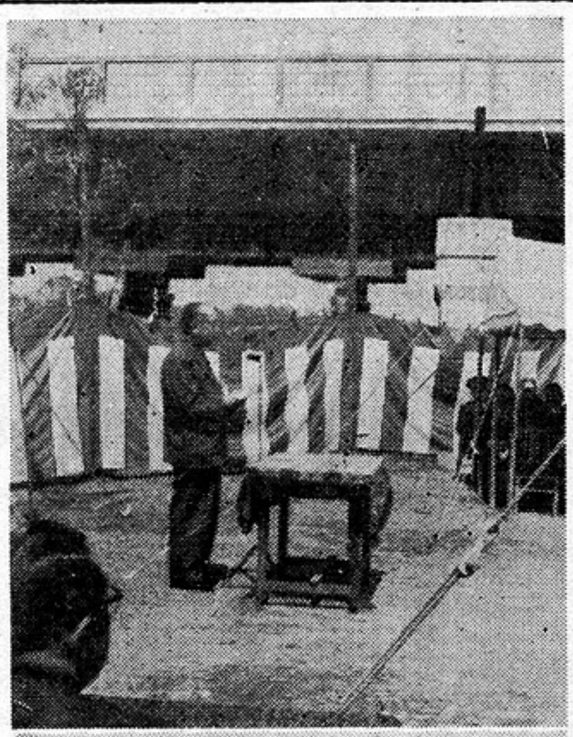
36年度区長

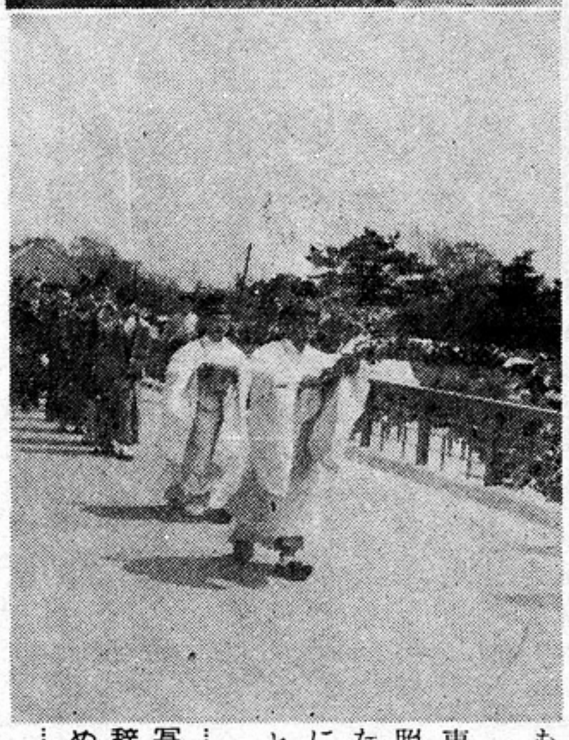
区長代理者決まる

区長改選の結果左の通り選任さる

（区長）（区長代理者）
▽入谷（部落名）会田秋元、会田昌夫
▽高木　加藤市三郎　会田平吉
▽一和耕　山中己之助　和井田福松
▽二和耕　石井保寿　萩野惣次郎
▽幸之宮　飯山勝　篠田正之助
▽鶴ヶ曽根(一)　小林文助　大久保政次郎
▽鶴ヶ曽根(二)　鈴木寅一郎　鈴木菊治
▽小作田　鈴木滝蔵　鈴木熊之助
▽松之木　豊田友治　豊田誠一
▽伊草　堀込秋蔵　浜野清治
▽上二丁目　恩田敬太郎　恩田三蔵
▽上木曽根　大山昌吾　恩田源蔵
▽下二丁目　田中友吉　田中弥市
▽下木曽根　恩田永三　織田松之助
▽南川崎　台平四郎　芝種郎
▽伊勢野　金杉和三郎　朝田慶四郎
▽上大瀬　臼倉健司　遠田藤系
▽下大瀬　高橋源蔵　臼倉常治
▽古新田東　三ヶ島茂　榎本健蔵
▽古新田西　近藤勝太郎　大熊登
▽会社　永峰武　沢田英二郎
▽坊　小沢富一　島根栄吉
▽新田　国枝福松　渋谷雄三
▽若柳　秋山文蔵　荻野金太郎
▽上馬場　武之内清吉　浜野専治
▽中馬場　立川勇之助　石井重次
▽大原　大山善治　堀井勇之助
▽大曽根　関根竹之丞　小倉憲太郎　小倉清右衛門
▽煉瓦工場　鈴木正朔　久下沼章
▽浮塚　宮本時雄　小宮栄造
▽西袋　小早川小五郎　中島清三郎
▽柳之宮　会田明　田中勝五郎
▽南後谷　藤波信昭　会田岩次郎

八条橋開通





草加、流山線に架かる八条橋が関係者各位の努力と地区住民の熱望により永久橋に架け替えされました。桜花咲き乱れる四月十一日盛大な開通式が挙行され、栗原知事始め来賓多数参列、厳粛な式典でした。

八条橋は遠く千葉県流山町又は柏市を経て四号国道に通じ、東京及び宇都宮方面への主要道路であり、交通量は年々増加しつつあります。本橋の永久橋完成により工業発展に寄与することはもちろん産業開発のためにも大いに役立つものとして期待されています。

長さ一三九・三米、幅六・六米車道幅員六米であり、自動点滅式照明燈六基の近代的橋となりました。利用者の喜びは直接村の発展につながり飛躍が約束されることと思います。（産業課）

写真説明＝八条橋開通式典で式辞をのべる栗原知事（上）と渡りぞめ式の光景（下）

みんなで守ろう八潮の時間
会合に笑って集まる五分前
時間守って正しい会議

その後の教職員異動

中学校の学級増にともない八潮中学校八幡中学校とも理数科担任の教員を補充する必要に迫られながら、今年の求人ブームにも影響されて、その補充に頭を悩まされていた。又八幡中で伊東美智子教諭が一身上の都合から退職されることになり、新学期開始を控えて中学校は時間割の編成に苦しむ実情にあり、緊急村内校長会を開いて懇談の結果、小中学校とも協力しあって八潮村の学校教育の充実を図ることに意見一致し、教育委員会においては本人の希望を聴取の上左のような転補の内申をし、四月一日付をもって発令を見た。

八潮中学校へ（理科）角谷繁男教諭（八条小）、八幡中学校へ（国語）松田温昭教諭（八幡小）同（数学）渡辺義衛教諭（潮止小）

この結果各小学校とも一名の欠員を生じたので、教育委員会はそれぞれ補充を法定し、新採用教員の内申を行ない、潮止小学校に今井恵男助教諭の臨時任用が四月十六日付発令され、八幡八条小学校の分も五月一日付をもって発令される予定である。（教育委員会）

八潮村の教育について（1）

今日では学校教育といわず、社会教育といわず、教育が国民生活の中でしめる意義や位置は非常に大きなものであり、また皆さんの関心もそれだけ高くなって来ています。戦後の私どもは高い文化や経済を培うことによって、国際社会で真に信頼と尊敬をかち得る国民ともなり、又日本を立派な国家として築き上げるとにもなります

従ってそのような国民を育成するために、ほんとうの子どもたちの幸福と国家社会の発展を理想として、教育の充実に、ますます力を注がなければならないのです。

力づよい村作りの中心として、よい先生に、しっかりした学校で充実した学習をというみなさんの熱望の下に、八潮村でも学校教育はもち論社会教育も、年一年と発展をつづけています。ことに八潮村の中央に三中学校を統合する八潮中学校の建設は、単に向う三年間におよぶ中学校生徒の激増対策にとどまらず、これまでの小規模な併置校的な中学校教育を一段も二段も飛躍させ、本格的な立派な施設、設備の下に、教員組織の充実、教育効果の発展が期待されるのであります。

最近の調査によりますと中学校生徒は、昭和三十五年度は十五万四千人、三十六年度は十七万九千人、三十八年度は十七万五千人となり、戦後のベビーインフレの結果としてこのような激増傾向は全国的現象で、三十七年度には三十五年度から比較すると、実に三万四百六人の増加となり、三十五年度の保有教室数三、五一三教室に対し、三十六年度は六一七教室、三十七年度は七二四教室の不足というような結果となり、不足する実験実習室はなお更のことで、大都市から地方市町村に至るまで、全国的に大きな悩みに直面している現況であります。

そのような現状から見ると、八潮村においては、昭和三十六年度昭和三十七年度にかけて、分教場授業も我慢しなければならないとしても、建築が計画的に進渉するなら昭和三十七年度中に全学級の生徒が新校舎で机を並べて学習にいそしむことが出来ることになります。

そこで皆さんにお願いすることは、ぜひ深い御理解協力をもってこの中学校の校庭が整備し、更に完備した実験実習室や管理室や体育館が出来るまで、中学校教育の充実に御支援いただきたく存するのであります。

（教育委員会）

家族計画推進の集い

四月十三日、本庁大会議室に推進委員十五人が集まり昭和三十六年度の事業計画等について検討しました。委員鈴木慶助、三枝静子両氏の後任として田中精一郎、松井トキの二人を補充組織の充実を図りました。

当日指導員である助産婦さんを通じ家族計画用器具を配給し本事業を推進することにしました。本年度の事業として婦人会を中心に家族計画の趣旨の普及を図るため部落単位に説明会等を開催すること、器具の配給について希望品が二、三、挙げられ、至急配給することなどの事項真剣に討議されました。家庭においては主婦のみでなく主人達にも啓蒙する必要性が強調されこれが対策を考究することに一決しました。（厚生課）

福祉関係会議

四月二十八日区長会後、引続き赤十字募金につき会議を持ち八潮村の目標額十万二千二百十円を村内より募金することに話し合い各部落の目標額を定めた。

みんなでそろって日赤募金

八條小中PTAで教職員の歓送迎会

四月二十二日午後一時から八条小学校PTA及び八潮中八条分教場PTA共催で、異動した教職員の歓送迎会が、八条支館ホールで盛大に行なわれた。病気中の会田旧八条中校長は欠席されたが、主賓として新旧の先生が残りなく列席し、飯山、鈴木両会長はじめ来賓の加藤教育委員長、三枝教育長鈴木前教育長らのあいさつがありPTA及び教育委員会からの記念品が転出職員に贈られ、終始和かな空気の中に懇談して歓送迎の清宴を終わった。

八潮小唄

若柳　秋山泰一

一
八潮づつみにゃうまくさもえる
かおる川かぜかわらかぜ
わすれしゃんすなつゆぐさ小草
君が在所は中川原

二
わらうえくぼがいとしゆてならぬ
紺のかすりが目にしみる
ちゃのこしのんで田植にまいりゃ
かわいあの子とさきの群

三
花のかんざしいなほをさして
ゆこかもどろか綾瀬橋
てれんてれんとまねくちゃないの
まねくはやしは秋祭

四
お囃こんこんろばたのまどい
ひざをたたいて火起男さん
米のなる木を歌ってござる
こよい晴れてのいろり酒

（作者注）「火起男さん（ひょっとこ）」は火を起す男、転じて、総べての原動力となる人の意。火起男を祭って、そのたゆみない活動力を拝んでいる地方もある。「ちゃのこ」は茶の刻。

表彰状

八潮村　木播永閑殿

あなたは多年公衆衛生の向上に尽力しその功績は顕著なものがあります。よってここに記念品を贈り表彰いたします。

昭和三十六年三月三十一日
第四回埼玉県公衆衛生大会々長
埼玉県知事　栗原浩郎

感謝状

柴務順殿

貴殿は八潮村厚生課長として多年里親制度の伸展に貢献されるとともに、自らも里親となりご夫妻協力して児童の養育に尽されたことは他の模範であります。よってここに記念品を贈り感謝の意を表します。

昭和三十六年四月二十三日
埼玉県里親会長
井ヶ田酉之助郎

感謝状

八潮村　豊田惣次郎殿

貴殿は昭和三十五年産米の改府への売渡申込と良質米の売渡しに優秀な成績を収められ集荷業務の遂行に寄与するところが大であったのでここに深く感謝の意を表します。

昭和三十六年三月二十八日
埼玉県知事　栗原浩郎

公衆衛生と宗教

―岩淵係長―

環境衛生、食品衛生、栄養改善、母子衛生、結核予防、成人衛生、精神衛生などの運動がそれぞれ対策の面、実践の面のずれから個々に取りあげられてきた。私は私なりにその意義は理解できる。しかし地区住民の立場にたってみると、好むと好まざるとにかかわらず、これらすべての問題は社会的関連性をもって切り離すことはできないものとなってきていると批判されるようになってきた。当然のなりゆきである。

「くらしの中の公衆衛生」として一つの実践運動の中でとりあげられねばいけない問題であり、私達もながい間それを呼びかけてきているからだ。公衆衛生は学術的にめざましい進歩をとげてきた。然しそれを関係者だけが理解し、承知しているだけでは目的は達せられない。それらが地域社会の人の上に充分活用されてこそ役立つものであり必要なことは、毎日の生活のなかに溶けこみ一人一人の生活感情、とならなければ効果は挙がらない。健康管理がよく行なわれていたなら、病気にかかる人も少なくなるであろうし、不幸にして発病しても早く発見して早く治療することができる家族は徒らに感染させたり、よけいな心配をすることもなく、家庭経済に破たんを生じないで、済まされることにもなる。公衆衛生は日常みんなで注意し実行されていくところに美しい実が結ぶものである。

信仰とは仏間にたてこもってお経をあげたり、寒修行をしたり、お説教を聞いたり、また教会でバイブルを読んだりすることだとする人が多いようだ。信仰のための信仰であってはならないと思うからだ。

そんな僕を「無神論者」ときめつける友もいる。信仰することにより束縛を感じたり罪悪感を抱くようなものは宗教として好しくないと思っているのみである。真の宗教とは人間を幸福にするように導いてくれるものだと教わったことがある。心のよりどころを求めて信仰するともいう。事実そういう人も多い。

心の寄りどころを宗教に求めねばならないというたとをいまも理解しかねている僕を不幸だと友はいう。自らを信じ、与えられた職務を忠実に果し、ひたぶりに努力していくところにこそ、幸福が生れるものではなかろうか。祖先を敬い、神前にぬかづく、けいけんな気持ちは人間らしく持っている筈なんだから「無神論者」ではないと思っている。

ただ努力もしないで困ったからといって神だのみしないだけである。孤独を賞する者のひがみからでもあるかも知れない。宗教と科学とは古くから斗争を続けてきた。ジェンナーの種痘の発見えも当時は魔法無神論という告発を受けたのであるが、科学は勝利を得て現在多くの人がその恩恵を受けている。

病気やケガを宗教により治すんだと信じている人も全国に無数にいるらしい迷信にまどわされるなと反論を振りかざす人も出てくる世の中はさまざまな精神の持主で構成されているからあきないものだ。現代の生活様式は随分と快適になってきた。いくら物資が豊かになり、電気製品により近代化したいつても、それを利用し倖せを味うべき人々が病んでいてはなんにもならない。ここに公衆衛生という科学的に基礎づけられた学問を地域社会の人々に滲透させ実践させるようにあらゆる対策を講ずべき必要性が生じてくる。

宗教は人間に幸福をもたらすものであるとしたなら、そこに科学的に裏付のある公衆衛生という学問をつけ加えていつたなら一層効果がある筈だ。

人間生活に健康があってこそ生きる倖せを感じるものである限り宗教は第二義的な存在と考えてはいけないものだろうか。伝染病は早く隔離して治療しないと、近隣の人のみでなく村財政にも大きく響いてくることを知って戴きたい。モチはモチ屋と古老は云う。そのとおりと思う。各位の理解ある協力を特にお願いしたい。